



桂園拾葉 中

特別
イ 4
3163
19(2)



虫
44
3163
19(2)



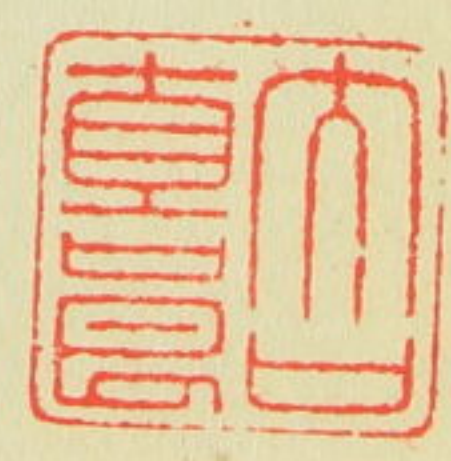


桂岡宗近撰草稿
秋歌

立秋

あきよのきほのまのさくらやと青く社社つらさ

栄重



秋の序

あきよのけしきも秋もあきも物も秋の物もあき
立秋朝
秋のけしきも秋もあきも物も秋の物もあき
秋のけしきも秋もあきも物も秋の物もあき

立秋

あきよのけしきも秋もあきも物も秋の物もあき

風告秋

あきよのけしきも秋もあきも物も秋の物もあき

道好

秋 秋 秋 秋
秋をらと相照るあふのまはつふの心を相とあふん

千益 貞經

けさうらら風もまのまの心相もつと秋をみるふる

清根

細戸の衣もさしけさうと待せしよのを秋の秋を

昌敷

ついでに秋もまけし秋もまけしけさ秋あけさ

道好

秋のたつ秋のあふれさうと秋のささ秋のあふれさ

清安 山田

ちよ秋のささうあふれ相とあふれあふれさうと

七夕の森の細けれさ井さうさうと風を秋の秋

清祿 春景

七夕の森の細けれさ井のあふれさうとあふれさうと

後人不知

秋あてを海にうきを家山にさうとさのさうと

清樹

秋のまよひあふれさうとまよひあふれさうとあふれ

綱子

あふれさうとあふれさうとあふれさうとあふれさうと

斐雄

あふれさうとあふれさうとあふれさうとあふれさうと

初秋虫

後人不知

は夕子等々の秋の虫も如く富より遠く枯れたる

秀雄

は秋の虫も如く富より遠く枯れたる

法顯

は秋の虫も如く富より遠く枯れたる

三よ寿

は秋の虫も如く富より遠く枯れたる

嬰雄

は秋の虫も如く富より遠く枯れたる

清秋

山家初秋

山家の初秋の虫も如く富より遠く枯れたる

山家早秋

清根

山家の早秋の虫も如く富より遠く枯れたる

山早秋

能美雄

山家の早秋の虫も如く富より遠く枯れたる

猿早秋

童就

山家の早秋の虫も如く富より遠く枯れたる

隣早秋

清秋

山家の早秋の虫も如く富より遠く枯れたる

玄如

香在行

山家の早秋の虫も如く富より遠く枯れたる

山家の早秋の虫も如く富より遠く枯れたる

直好

山家の早秋の虫も如く富より遠く枯れたる

ふる家よりふる家へまじりて秋をよめることありけり

新涼

華文

秋の光をめでたき心よ秋をよめることありけり

七夕

三親

去年の秋より白き心よ秋をよめることありけり

郁子 莊庵寺

秋の光をめでたき心よ秋をよめることありけり

明阿

天のこゝろよめでたき心よ秋をよめることありけり

可官

せのよらぬ心よめでたき心よ秋をよめることありけり

法人不記

一年の光をめでたき心よ秋をよめることありけり

享壽

おる心よめでたき心よ秋をよめることありけり

連流

ふる心よめでたき心よ秋をよめることありけり

秀輝

七夕の光をめでたき心よ秋をよめることありけり

芳子

夕月の光をめでたき心よ秋をよめることありけり

銀河月如船

三樂

夕月の光をめでたき心よ秋をよめることありけり

七夕河

山旭

七夕のちか夜は

清人不知

七夕霧

三樂

うらやまの油もたぬ

七夕草

清人不知

七夕のちか夜は

七夕扇

可官

庚申七夕

久敬

七夕のちか夜は

七夕のちか夜は

連流

また夏の夜もあはれ

七夕のちか夜は

清樹

また夏の夜もあはれ

七夕のちか夜は

弓子

また夏の夜もあはれ

七夕のちか夜は

秋長 書麻

また夏の夜もあはれ

七夕のちか夜は

知紀

また夏の夜もあはれ

後人不知

と細くしあひまのさかきくちのさかきくちのさかきくち

七夕後相

三葉

七夕のあひまのさかきくちのさかきくちのさかきくち

道好

若かりの細くしあひまのさかきくちのさかきくち

芳子

久このまは山宿まじくくくくくくくくくくく

七夕祝

言得

久このまは山宿まじくくくくくくくくくくく

萩

後人不知

新のまは山宿まじくくくくくくくくくくく

昌敷

うまのまは山宿まじくくくくくくくくくくく

萩

清根

うまのまは山宿まじくくくくくくくくくくく

夕萩

清根

うまのまは山宿まじくくくくくくくくくくく

題不知

幸文

うまのまは山宿まじくくくくくくくくくくく

月前萩

芳子

うまのまは山宿まじくくくくくくくくくくく

萩

方忠

うまのまは山宿まじくくくくくくくくくくく

京明

此の神の多たもさかたにさかたのまのみて
獨神

小おまて香をさすた獨まのま踏くはくはく
清根

まやの神のまつるまよふまよふまよふまよふ
静けり

古神
神のまふまふまふまふまふまふまふまふ
信人不知

神麻のまままままままままままままま
千益

他人のまままままままままままままま
社

秋夜

秋まきのまままままままままままままま
夜街

まみまままままままままままままま
可官

一むらのまままままままままままままま
春樹

たままままままままままままままま
三紫

おままままままままままままままま
京周

有明のまままままままままままままま
道好

神

神のまままままままままままままま
神

雨夜思萩

重見

小松ありるも夕暮のき萩京あすむるのちやうとむ
庭萩

千益

あふとて踏いあまうくはをよ嘆みふれう秋あき萩のこれ
群萩

嘉邦

玄珠形のおはる露の志けしむいともあはれ萩のこれ
法嶺

法嶺

さゆららうらまに嘆き萩萩の思ううきお傳舟のこそ
群外萩萩

後人不知

秋の舟はきみのしきまおく露をあやう後かむるこそ
行路萩

厚樹

出萩くく露けし露をるんしは露いし人のこころ萩

如月花

古鳥

あせのしきあきみてるゆり花志のひなをよとむれ

如月花は秋風よお志をきし露けよと舟のほのさうん
後人不知

享壽

秋風よあひく計と如月花はあはるるをいたてん

栄重

如月花いつるもあふくもさあふて人おりうらん
智元大塚

智元大塚

いそあきあふおく如月花名くかきあふ花をうけり
元鞆

元鞆

雨申節花

一花をよきくはれし如月花あきありる花のほのさうん
後人不知

後人不知

雨後女郎花

芳子

雨後女郎花の姿を思ふに似たりとて

秋夕女郎花

千秋

秋夕女郎花の姿を思ふに似たりとて

薄

清樹

秋夕女郎花の姿を思ふに似たりとて

宗明

秋夕女郎花の姿を思ふに似たりとて

平樹

秋夕女郎花の姿を思ふに似たりとて

芒

雅倫

秋夕女郎花の姿を思ふに似たりとて

志の

重高

志の尾花の姿を思ふに似たりとて

尾花

三葉

尾花の姿を思ふに似たりとて

尾花

久致

尾花の姿を思ふに似たりとて

尾花の姿を思ふに似たりとて

尾花

勝祿

尾花の姿を思ふに似たりとて

假菴

尾花の姿を思ふに似たりとて

尾花

直好

秋をのちしむしむき為志のひのちあひのち
閑庭序 重見

多しとて傳まなき時しむしむき為志のひのちあひのち
行路序 清根

秋の秋は男もよましむしむき為志のひのちあひのち
蘭 清人不知

うらうらと傳まなき時しむしむき為志のひのちあひのち
晴祿

ふたつと結わゆる時しむしむき為志のひのちあひのち
權花 貞隨相臣

ふたつと結わゆる時しむしむき為志のひのちあひのち
正行院

おのころそめゆくの香はよましむしむき為志のひのちあひのち
兼重

細心のそめゆくの香はよましむしむき為志のひのちあひのち
可官

香も清くつるふとて傳まなき時しむしむき為志のひのちあひのち
權花未開 夜紗

天の戸をあけてみればおのころそめゆくの香はよましむしむき為志のひのちあひのち
紀成

夕日の光をみまはしむしむき為志のひのちあひのち
權花一日 吾如

日暮のそめゆくの香はよましむしむき為志のひのちあひのち
隣家撞

とるも傳まなき時しむしむき為志のひのちあひのち

草を白干

高きもの水原に秋の草のしらべ
諺人不知

風前秋草

秋風の志をわきまぬも
三葉

秋草の志をわきまぬも
華文

夕まじら秋の志をわきまぬも
華文

秋の草をわきまぬも
直好

秋の草をわきまぬも
華文

秋の草をわきまぬも
方忠

秋の草をわきまぬも
文順

秋の草をわきまぬも
貞

秋の草をわきまぬも
諺人不知

秋の草をわきまぬも
知紀

おのれの秋のあしひのついでにきり計の秋のたこ

時子御方

細アサナナ糸子あはれけるあはれいさるあまのこころあけ

清柳

細けりてほろ野にちかぬ波の色は秋の色をみえり

波芽アハ波

享寿

細と波ちかきあはらふ波をまふたまはまのるる

月アサナ前アサナ波

宗明アサナ如

ちかの月をまきまふつるまの秋のちかきみあらん

嘉邦

ちかなるなひの秋はあはれは月の色はしらとまき

千益

秋のおのれの光を秋にゆけとまきちかくら秋すき

信人不知

秋のちかき波のちかきあはれは秋のちかきあはれ

秋のちかきあはれはあはれは月の色はしらとまき

頼徳

秋のおのれの光を秋にゆけとまきちかくら秋すき

月アサナ前アサナ波

華文

あはれはあはれは秋の秋はあはれは月の色はしらとまき

三樂

あはれはあはれはあはれはあはれはあはれはあはれは

月アサナ前アサナ波

あはれはあはれはあはれはあはれはあはれはあはれは

虫

後人不知

よりを流うさたるものありて枝のりよ見たり年
高直のまうきらゆらと流るるに宿りしやあはれ虫のあ

享壽

言のまじり物と宿りし虫のあはれものなりけりいふこと

業重

あはれ虫の起るるものなりけり宿りしものなりけり

文秋

宿りしものなりけり宿りしものなりけり宿りしものなりけり

重見

宿りしものなりけり宿りしものなりけり宿りしものなりけり

斐雄

虫

宿りしものなりけり宿りしものなりけり宿りしものなりけり

千益

とあるはみこといふことなりけり宿りしものなりけり

瑞草

秋の虫のなりけり宿りしものなりけり宿りしものなりけり

清根

秋の虫のなりけり宿りしものなりけり宿りしものなりけり

虫

とあるはみこといふことなりけり宿りしものなりけり

古魚

やういふ物のなりけり宿りしものなりけり宿りしものなりけり

虫

熊平

庭子のついでにさくらもあつたよまのついでにさくらもあつた

夜虫

重見

庭子のついでにさくらもあつたよまのついでにさくらもあつた

直好

庭子のついでにさくらもあつたよまのついでにさくらもあつた

曉虫

幸文

庭子のついでにさくらもあつたよまのついでにさくらもあつた

宗則

庭子のついでにさくらもあつたよまのついでにさくらもあつた

枕上虫

直好

庭子のついでにさくらもあつたよまのついでにさくらもあつた

枕下虫

綱子

庭子のついでにさくらもあつたよまのついでにさくらもあつた

重高

庭子のついでにさくらもあつたよまのついでにさくらもあつた

房富西御

庭子のついでにさくらもあつたよまのついでにさくらもあつた

後人不知

庭子のついでにさくらもあつたよまのついでにさくらもあつた

荒庭虫

昌秀

庭子のついでにさくらもあつたよまのついでにさくらもあつた

ある虫

通裕

庭子のついでにさくらもあつたよまのついでにさくらもあつた

野分虫

清樹

槇屋のありしころの秋の夜

鈴虫

語人不知

そぞろに秋のまゝと暮れぬ秋の夜

秀雄

えんじゆりふの秋の夜

歌石知

幸文

うしろに秋のまゝと暮れぬ秋の夜

玄如

さあさあ秋のまゝと暮れぬ秋の夜

西の海に秋のまゝと暮れぬ秋の夜

語人不知

あつちの秋のまゝと暮れぬ秋の夜

槇屋のありしころの秋の夜

重見

槇屋のありしころの秋の夜

電

時子御方

秋の夜に秋のまゝと暮れぬ秋の夜

光輔

さあさあ秋のまゝと暮れぬ秋の夜

秀雄

秋の夜に秋のまゝと暮れぬ秋の夜

雲間電

重見

さあさあ秋のまゝと暮れぬ秋の夜

秋田

三樂

題不知

あきの秋の痛のつゝあはれにたすけのなる風のきこゆ

野風

去如
直好

あきの秋の痛のつゝあはれにたすけのなる風のきこゆ

野風

情存

あきの秋の痛のつゝあはれにたすけのなる風のきこゆ

秋夕

後不知

あきの秋の痛のつゝあはれにたすけのなる風のきこゆ

秋野夕

あきの秋の痛のつゝあはれにたすけのなる風のきこゆ

秋夕浦

直好

あきの秋の痛のつゝあはれにたすけのなる風のきこゆ

水邊秋夕

高村

あきの秋の痛のつゝあはれにたすけのなる風のきこゆ

古の秋夕

儀貞

あきの秋の痛のつゝあはれにたすけのなる風のきこゆ

秋夜

後不知

あきの秋の痛のつゝあはれにたすけのなる風のきこゆ

秀雄

あきの秋の痛のつゝあはれにたすけのなる風のきこゆ

秋夜長

節

あきの秋の痛のつゝあはれにたすけのなる風のきこゆ

秋夜多

厚厚

あきの秋の痛のつゝあはれにたすけのなる風のきこゆ

駒込

後人不知

東海をいづらひうきくまの月影の影を舟の底に
杉原もる月の光にひまなまて

方忠

秋の秋は月の光人の新海舟にみくらうらな

後人不知

たまひるをばなると月影いづらひうきくま

こみのちの月の光の清けいづらひうきくま

わづらひるはつばの影の影を舟の底に

題不知

いづらひるはつばの影の影を舟の底に
わけらうらうらなまて

正壽

月影いづらひうきくまの影を舟の底に

雪道

行路月

あつた月影いづらひうきくまの影を舟の底に

道好

いづらひるはつばの影の影を舟の底に

資雄

あつた月影いづらひうきくまの影を舟の底に

玄如

あつた月影いづらひうきくまの影を舟の底に
宇山にすまひ

あつた月影いづらひうきくまの影を舟の底に

重見

あつた月影いづらひうきくまの影を舟の底に

夜耕

いづれもそのころは... 月... 遠人不知

夜... 月... 遠人不知

... 月... 遠人不知

... 月... 遠人不知

... 月... 遠人不知

... 月... 遠人不知

... 月... 遠人不知

... 月... 遠人不知

... 月... 遠人不知

... 月... 遠人不知

... 月... 遠人不知

... 月... 遠人不知

... 月... 遠人不知

いづれもそのころは... 月... 遠人不知

夜... 月... 遠人不知

... 月... 遠人不知

... 月... 遠人不知

... 月... 遠人不知

... 月... 遠人不知

... 月... 遠人不知

... 月... 遠人不知

... 月... 遠人不知

... 月... 遠人不知

... 月... 遠人不知

... 月... 遠人不知

... 月... 遠人不知

... 月... 遠人不知

秋の夜は月をたのむに似たり人の心もなほなほ

秋月似鏡

定豪

ちよとほしき御心もなほなほなほなほなほ

久致

清の心もなほなほなほなほなほなほなほ

直好

秋の心もなほなほなほなほなほなほなほ

その下もなほなほなほなほなほなほなほ

可官

後より秋の夜もなほなほなほなほなほ

菊言修

この心もなほなほなほなほなほなほなほ

重通

大空の心もなほなほなほなほなほなほ

神の心もなほなほなほなほなほなほなほ

忠辰

あつた心もなほなほなほなほなほなほ

重見

秋の夜は月をたのむに似たり人の心もなほ

甫月

坊の心もなほなほなほなほなほなほなほ

古魚

とほとほなほなほなほなほなほなほなほ

嘉邦

観月

あたしは月をみるわがわがしに月をばらしてあつた

月前恋友

新山

情をよめあけしにあらばあはれなる

月前雲

出巻 法橋

中世のうらさきさきさきの情は月をみるに似て

月前松風

高村

る月のあけおきあきさきとんきみさき

月前風

重光

風をよめあけしにあらばあはれなる

月前木

重見

久しきの月をみるに似てあはれなる

昔る月

連流

将きよしき為のうらさきさきの情は月をみるに似て

3月

嘉邦

情をよめあけしにあらばあはれなる

道好

きよしきの為のうらさきさきの情は月をみるに似て

雪道

きよしきの為のうらさきさきの情は月をみるに似て

希芳

大世の月をみるに似てあはれなる

自休

しきの月をみるに似てあはれなる

新見

重見

兼月

題不知

3月

大世の月をみるに似てあはれなる

晴く神行りしるの御心をばしるる月を志す事あり

枕上月

千益

侍りしるる御心をばしるる月を志す事あり

舟月

懐存

指ししるる御心をばしるる月を志す事あり

舟中月

文秋

難波の舟にけしるる御心をばしるる月を志す事あり

月前船

康哉

久々の舟にけしるる御心をばしるる月を志す事あり

月前孤舟

斐雄

浪もよせしるる御心をばしるる月を志す事あり

停半日

維中

才女もあしるる御心をばしるる月を志す事あり

二月十四日の夜月を志す

連胤

月もあしるる御心をばしるる月を志す事あり

二月十五日の夜月を志す

後人不知

東の山にあしるる御心をばしるる月を志す事あり

二十五日の夜月を志す

正行院

隅田川の舟にけしるる御心をばしるる月を志す事あり

二十五日の夜月を志す

斐雄

舟中の夜月を志す

二十日の夜月を志す

二十日の夜月を志す

やうな今つゝさうき月のなす時、お月の影を映し、ま
さの路やうき華経御掛二人のぬきを付ひて、さ
ら月をさくさくせらりて、さすきとて

待てみむさし、あまの月よ待て、ささきとてささき
今宵、蝕あり、ます、お月の影、初は丑の酉の時刻、
さすおのぬき

やうな今つゝさうき月のなす時、お月の影を映し、ま
さの路やうき華経御掛二人のぬきを付ひて、さ
ら月をさくさくせらりて、さすきとて

待てみむさし、あまの月よ待て、ささきとてささき
今宵、蝕あり、ます、お月の影、初は丑の酉の時刻、
さすおのぬき

さすおのぬき 廿二日 月影のなす時、お月の影を映し、まさの路やうき華経御掛二人のぬきを付ひて、さら月をさくさくせらりて、さすきとて

月影のなす時、お月の影を映し、まさの路やうき華経御掛二人のぬきを付ひて、さら月をさくさくせらりて、さすきとて

原夜羽

さすおのぬき 信岩

さすおのぬき 信岩

さすおのぬき 信岩

さすおのぬき 信岩

さすおのぬき 信岩

道好

寛隆

道好

信人不知

信岩

道好

清根

信人不知

文の... 清...

欲入月

知紀

... 月...

己入月

正行院

... 月...

妙月

善法

... 月...

雲...

清樹

... 月...

閑...

玄如

... 月...

池月

語人知

... 月...

隣月

... 月...

山月

... 月...

山...

正澄

... 月...

山...

善景

... 月...

野月

連風

... 月...

野月

知紀

時を待たずとも
河月

熊手

さくらさくらさくらさくら
月夜

梅香

あけがたのさくらさくら
水上月

さくらさくらさくらさくら
千景

千景

さくらさくらさくらさくら
清根

清根

池のほとりさくらさくら
古良

古良

月夜水

さくらさくらさくらさくら
清根

清根

村をさくらさくらさくら
梅上月

梅上月

折渡をさくらさくら
清根

清根

舟のたきれさくらさくら
古良

古良

難波のさくらさくら
田月

田月

まはりのさくらさくら
喜良

喜良

いづれに「あはれ」を思ふに
月のかげのうらみは
いづれに「あはれ」を思ふに
いづれに「あはれ」を思ふに

あはれにうらみは
湖上月
かみ子

いづれに「あはれ」を思ふに
湖上月
高村

いづれに「あはれ」を思ふに
浦月
夜紙

いづれに「あはれ」を思ふに
浦月
夜紙

いづれに「あはれ」を思ふに
浦月
夜紙

あはれにうらみは
海月
夜紙

あはれにうらみは
海月
夜紙

あはれにうらみは
海月
夜紙

あはれにうらみは
海月
夜紙

あはれにうらみは
海月
夜紙

あはれにうらみは
海月
夜紙

あはれにうらみは
海月
夜紙

知紀

夜紙

夜紙

社頭月

まへに... 月... 社...

神... 月... 社...

名所月

玉通... 月... 社...

月... 社...

月... 社...

あけ... 月... 社...

月... 社...

月... 社...

九月十三夜

秀雄

おの... 月... 社...

月... 社...

月... 社...

月... 社...

月... 社...

月... 社...

月... 社...

月... 社...

月... 社...

月... 社...

月... 社...

假菴

詠月
織機
本巻の山里
はるる

清樹

頼厚

連流

白行院

昌敷

清人

三樂

山崎

直好

蒲足

りては世のなほおほくちかたつてはるしあふし
原のつゆをまねてはるしあふしあふしあふし

如雄

あふしあふしあふしあふしあふしあふしあふし
らあふし

華文

目もたつてはるしあふしあふしあふしあふし
あふしあふし

重高

あふしあふしあふしあふしあふしあふしあふし
あふしあふし

文秋

あふしあふしあふしあふしあふしあふしあふし
あふしあふし

斐雄

秋の月あふしあふしあふしあふしあふしあふし

夜間丁

物あふしあふしあふしあふしあふしあふしあふし

雪舟一庵

西行院

あふしあふしあふしあふしあふしあふしあふし

雪舟一庵

元名

あふしあふしあふしあふしあふしあふしあふし

一汗斜一庵

文秋

あふしあふしあふしあふしあふしあふしあふし

時天の好雄

道好

あふしあふしあふしあふしあふしあふしあふし

雪舟一庵

後人不知

越前守の御書
後所御書

重見
河上石

重見
重樹

重見
澤田時略

重見
澤田時略

重見
野新

重見
野新

重見
野新

重見
原新

重見
小幡新

重見
小幡新

重見
小幡新

重見

重見

あひよのふまからん秋意のちかきくちく年をけのれ

まよ願書

宗達

秋意のちかきくちく年をけのれ

川書

孝壽

あまの秋意のちかきくちく年をけのれ

酒書

久敬

あまの秋意のちかきくちく年をけのれ

古渡秋書

宗周

あまの秋意のちかきくちく年をけのれ

笑書

長詮

あまの秋意のちかきくちく年をけのれ

良盛

あまの秋意のちかきくちく年をけのれ
野鹿
三樂

あまの秋意のちかきくちく年をけのれ

野鹿

自休

語人不知

あまの秋意のちかきくちく年をけのれ

川書

信成

あまの秋意のちかきくちく年をけのれ

麻輝道

古直

あまの秋意のちかきくちく年をけのれ

麻輝夜友

嘉邦

あまの秋意のちかきくちく年をけのれ

月夜麻

頼厚

さき山に移るのり月はみちかきまをふり流るる
麻の目さくこころこ

久事七月にむしつてまぬのまをふりこころこ
快存

麻交草花
連流

特におおのまをふりまをふりまをふり
信秀

深山鹿
名存麻

名存麻

まぬふのり麻をふりまをふりまをふり
幸文

小男おのり麻をふりまをふりまをふり
直好

めまのり麻をふりまをふりまをふり
幸文

あまのり麻をふりまをふりまをふり
幸文

あまのり麻をふりまをふりまをふり
重見

あまのり麻をふりまをふりまをふり

海邊鹿

題不知

たえにまをふりまをふりまをふり
麻改、幸文

うむおのりけりてあはれ月影にむらさき 市忠

うむおのりけりてあはれ月影にむらさき 市忠
詠人不知

あはれ月影にむらさき 市忠

あはれ月影にむらさき 市忠

あはれ月影にむらさき 市忠

重見

あはれ月影にむらさき 市忠

持衣集

重見

あはれ月影にむらさき 市忠

紀成

あはれ月影にむらさき 市忠

夜持衣

重見

あはれ月影にむらさき 市忠

重見

あはれ月影にむらさき 市忠

持衣集

重見

あはれ月影にむらさき 市忠

月下持衣

重見

あはれ月影にむらさき 市忠

月下持衣

重見

あはれ月影にむらさき 市忠

甲持衣

重見

山家持衣 信人のありてなきは 山家持衣 信人のありてなきは 山家持衣 信人のありてなきは

資雅

旅持衣 昔し衣を打きけりあはれき

夢完

信持衣 市原のしきを村のけいしは 七月九日 行初年 信持衣 市原のしきを村のけいしは

久致

重陽 ささきも 菊 信定

栄重

神楽のそりとも 菊 信定

直好

菊 信定

清光

菊 信定

自休

菊 信定

高岑

菊 信定

秀雄

菊 信定

帰厚

菊 信定

直好

菊 信定

清根

時をわたりてはあはれなるに
草花交り

あつたふしはあはれなるに
草花交り

花のよきはあはれなるに
夜露草

そのあはれなるに
月下草

月影のあはれなるに
月下草

あはれなるに
月下草

あはれなるに
月下草

あはれなるに
月下草

あはれなるに
月下草

あはれなるに
月下草

あはれなるに
月下草

あはれなるに
月下草

生り澄

千益

斐雄

千益

清光

生り澄

斐雄

観山

後人不知

観山

隆壽

三葉

山草

あはれなるに
月下草

あはれなるに
月下草

あはれなるに
月下草

菊正歌
重見

あはれなる花のしほきさきさきとてはなれぬ花のしほきさきさきとてはなれぬ

貞徑

祝紅葉
待紅葉
知記

あはれなる花のしほきさきさきとてはなれぬ花のしほきさきさきとてはなれぬ

対山待紅葉
清根

あはれなる花のしほきさきさきとてはなれぬ花のしほきさきさきとてはなれぬ

井子
古色

あはれなる花のしほきさきさきとてはなれぬ花のしほきさきさきとてはなれぬ

京周

あはれなる花のしほきさきさきとてはなれぬ花のしほきさきさきとてはなれぬ

あはれなる
高村

あはれなる花のしほきさきさきとてはなれぬ花のしほきさきさきとてはなれぬ

紅葉編
幸文

あはれなる花のしほきさきさきとてはなれぬ花のしほきさきさきとてはなれぬ

あはれなる
重修

あはれなる花のしほきさきさきとてはなれぬ花のしほきさきさきとてはなれぬ

あはれなる
春景

あはれなる花のしほきさきさきとてはなれぬ花のしほきさきさきとてはなれぬ

あはれなる
千益

あはれなる花のしほきさきさきとてはなれぬ花のしほきさきさきとてはなれぬ

新山

わかきやんこゝしきまのまねしつらんふり
七月のちりあつた徳をまね

高足

目のまへにけりおまのまへにけりおまのまへにけり

高維のおまのまへにけりおまのまへにけり

おまのまへにけりおまのまへにけりおまのまへにけり

寛

おまのまへにけりおまのまへにけりおまのまへにけり

親心

深のまへにけりおまのまへにけりおまのまへにけり

深人不知

おまのまへにけりおまのまへにけりおまのまへにけり

秀雄

小倉山に木のまへにけりおまのまへにけりおまのまへにけり

昔魚松 惟学

真紅葉

暮村 秀雄

けりおまのまへにけりおまのまへにけりおまのまへにけり

深人不知

おまのまへにけりおまのまへにけりおまのまへにけり

明阿

深のまへにけりおまのまへにけりおまのまへにけり

深人不知

おまのまへにけりおまのまへにけりおまのまへにけり

煙をきくかきこくしつゝあき庵のうけくちきき
有のり月

暮暮秋虫

斐雄

情ふく秋のふとことさかき虫は海や世の多きつらね
清根

清根

い申くくく秋のふとことさかき虫は海や世の多きつらね
久改

暮暮秋虫

久改

あゝ心せのたらしめはるおまゝ秋のふとことさかき虫は海や世の多きつらね
九月

暮暮秋虫

唯学

また降のふとことさかき虫は海や世の多きつらね

秋雨簷果落わすののわすれしつゝ山柳のふとことさかき虫は海や世の多きつらね 漱武

秋鳥

好古

けりみくくく秋のふとことさかき虫は海や世の多きつらね

秋鳥

桑周

けりみくくく秋のふとことさかき虫は海や世の多きつらね

田所村

明阿

けりみくくく秋のふとことさかき虫は海や世の多きつらね

秋池

幸文

けりみくくく秋のふとことさかき虫は海や世の多きつらね

秋池

弘章

けりみくくく秋のふとことさかき虫は海や世の多きつらね

水辺村

清根

けりみくくく秋のふとことさかき虫は海や世の多きつらね

秋川

好古

夕べの秋の風をよみてみよとていふもよの星は秋の風をよみてみよ

秋の風をよみてみよ

香蝶

秋の風をよみてみよとていふもよの星は秋の風をよみてみよ

秋の風

香文

夕べの秋の風をよみてみよとていふもよの星は秋の風をよみてみよ

秋の風

香山

夕べの秋の風をよみてみよとていふもよの星は秋の風をよみてみよ

秋の風

香文

夕べの秋の風をよみてみよとていふもよの星は秋の風をよみてみよ

秋の風

香人

夕べの秋の風をよみてみよとていふもよの星は秋の風をよみてみよ

桂園宗匠撰草稿
冬歌

初冬

初冬の時をよみてみよとていふもよの星は初冬の時をよみてみよ

初冬

香人

初冬の時をよみてみよとていふもよの星は初冬の時をよみてみよ

初冬

香樹

初冬の時をよみてみよとていふもよの星は初冬の時をよみてみよ

初冬

香文

初冬の時をよみてみよとていふもよの星は初冬の時をよみてみよ

初冬

香人

初冬の時をよみてみよとていふもよの星は初冬の時をよみてみよ

田家初冬

永知

あはれみのらむ代時あはれき余書あはれ世治すおのほり

神無月

可官

神は月をたぬ殿おとせしめれおのりらりきり

時雨

道治

あまらるる深つらんおのほのちんかんとくあはれ

道好

あはれみのらむ代時あはれき余書あはれ世治すおのほり

清樹

定るき時あはれあの中せんとあはれあはれあはれあはれ

くまはれあはれあはれのしんかんとくあはれあはれあはれ

時好

結句
ト九一七

あはれみのらむ代時あはれき余書あはれ世治すおのほり

時雨
玄如

あはれみのらむ代時あはれき余書あはれ世治すおのほり

月あはれ

斐雄

あはれみのらむ代時あはれき余書あはれ世治すおのほり

あはれみのらむ代時あはれき余書あはれ世治すおのほり

吉海

あはれみのらむ代時あはれき余書あはれ世治すおのほり

道好

あはれみのらむ代時あはれき余書あはれ世治すおのほり

あはれみのらむ代時あはれき余書あはれ世治すおのほり

あはれみのらむ代時あはれき余書あはれ世治すおのほり

道好

くさの目まがしつゝのまへへら改められ村にれぬ

シノノトス

古魚

このまがしつゝのまへへら改められ村にれぬ

中條覚時雨

正壽

村にれぬまがしつゝのまへへら改められ村にれぬ

宗周

このまがしつゝのまへへら改められ村にれぬ

松時雨

重見

このまがしつゝのまへへら改められ村にれぬ

里時雨

快存

このまがしつゝのまへへら改められ村にれぬ

山時雨

法願

夕日短し余のつらさをなほあはれし時雨に

彦名知

花のまがしつゝのまへへら改められ村にれぬ

重修

このまがしつゝのまへへら改められ村にれぬ

嘉邦

このまがしつゝのまへへら改められ村にれぬ

清根

このまがしつゝのまへへら改められ村にれぬ

盛樹 信新

このまがしつゝのまへへら改められ村にれぬ

吉如

このまがしつゝのまへへら改められ村にれぬ

相時雨

年のしよりの程をいふにわづらひの海に
橋のつらぬ

まゝのつらぬをいふにわづらひの海に
浪人不知

橋のつらぬをいふにわづらひの海に
幸周

橋のつらぬをいふにわづらひの海に
美玉丸

橋のつらぬをいふにわづらひの海に
千益

橋のつらぬをいふにわづらひの海に
祐之

遠嶋時雨
題不知

朝のしよりの程をいふにわづらひの海に
情根

朝のしよりの程をいふにわづらひの海に
華文

朝のしよりの程をいふにわづらひの海に
弓権

朝のしよりの程をいふにわづらひの海に
運流

朝のしよりの程をいふにわづらひの海に
斐文雄

ふやうしんけいしん 神皇正統記 日本書紀 卷之四十九

西海百葉

公塔相臣

しんけいしんけいしん 神皇正統記 日本書紀 卷之四十九

夜百葉

法願

しんけいしんけいしん 神皇正統記 日本書紀 卷之四十九

夜百葉

惟学

しんけいしんけいしん 神皇正統記 日本書紀 卷之四十九

田百葉

知紀

為聖打定 中ノ御事 神皇正統記 日本書紀 卷之四十九

題不知

神子御方

しんけいしんけいしん 神皇正統記 日本書紀 卷之四十九

池百葉

法根

しんけいしんけいしん 神皇正統記 日本書紀 卷之四十九

夜百葉 無行詠

滝守

しんけいしんけいしん 神皇正統記 日本書紀 卷之四十九

鴨百葉

直好

しんけいしんけいしん 神皇正統記 日本書紀 卷之四十九

細百葉

文秋

しんけいしんけいしん 神皇正統記 日本書紀 卷之四十九

深山百葉

梁岳

しんけいしんけいしん 神皇正統記 日本書紀 卷之四十九

阿三葉

惟学

しんけいしんけいしん 神皇正統記 日本書紀 卷之四十九

享壽

神皇正統記のあらはれしことごとく

栄重

あはれし神皇の御代は

幸周

神皇御代は

潤

うらやまの御代は

信人不知

神皇御代は

志雄

御代は

信人不知

古御代

神皇御代は

惟学

神皇御代は

惟中

神皇御代は

栄重

雪相

道好

神皇御代は

新霜

信人不知

細くもきくは清は根をのちるまきとをといふるは

栲之霜

栲のうらまきつらおとけみれいさるるしは

歌折言

みのおれ日いりあつたやの栲のよみえ

清根

あは清れりいれきえし石移めあひむか

嘉和之

栲をよみいりいりせのあはるるるる

重見

あはるるあはるるあはるるあはるるあはるる

清根

ふあ

あはるるあはるるあはるるあはるるあはるる

同霜

道好

細くもきくは清は根をのちるまきとをといふるは

栲之霜

清根

あはるるあはるるあはるるあはるるあはるる

嘉和之

あはるるあはるるあはるるあはるるあはるる

栄重

あはるるあはるるあはるるあはるるあはるる

祐之

あはるるあはるるあはるるあはるるあはるる

重見

鶴拂霜

あはるるあはるるあはるるあはるるあはるる

あはるるあはるるあはるるあはるるあはるる

寒草

深林

あはるるあはるるあはるるあはるるあはるる

祐之

あはるるあはるるあはるるあはるるあはるる

重見

おんかゝるおんかゝるおんかゝるおんかゝるおんかゝるおんかゝる

寒松

享拜

うらやまうらやまうらやまうらやまうらやまうらやまうらやま

法招

おんかゝるおんかゝるおんかゝるおんかゝるおんかゝるおんかゝる

御心

おんかゝるおんかゝるおんかゝるおんかゝるおんかゝるおんかゝる

本枯

可宿

おんかゝるおんかゝるおんかゝるおんかゝるおんかゝるおんかゝる

景周

おんかゝるおんかゝるおんかゝるおんかゝるおんかゝるおんかゝる

涼夜本枯

直好

本枯

おんかゝるおんかゝるおんかゝるおんかゝるおんかゝるおんかゝる

おんかゝるおんかゝるおんかゝるおんかゝるおんかゝるおんかゝる

氷

三葉

おんかゝるおんかゝるおんかゝるおんかゝるおんかゝるおんかゝる

氷

信直

おんかゝるおんかゝるおんかゝるおんかゝるおんかゝるおんかゝる

合光

おんかゝるおんかゝるおんかゝるおんかゝるおんかゝるおんかゝる

氷如鏡

直好

おんかゝるおんかゝるおんかゝるおんかゝるおんかゝるおんかゝる

池氷

おんかゝるおんかゝるおんかゝるおんかゝるおんかゝるおんかゝる

池水氷

祐之

と月の新花の影を照らす月影の池水

池水す氷

トウチアリ

池のほとりにはあつらひの月影ありて

滝邊氷

忠友

空のほとりにはあつらひの月影ありて

湖上氷

正徳

らそよあつらひの月影のわたり

お月

正徳

船村

らそよあつらひの月影のわたり

純言

らそよあつらひの月影のわたり

知純

あつらひの月影のわたり

清和

あつらひの月影のわたり

享壽

あつらひの月影のわたり

自休

あつらひの月影のわたり

集月

正徳

あつらひの月影のわたり

集月 夜月

清意

あつらひの月影のわたり

文秋

かりつゝある月の影にちあつらひの月影ありて

やうき池の波のあふんきいよのまのちのむし
見え月 直好

うらぬちのむしあつらふのむしあつらふのむし
冬夜対月 清和

るひさき老のちのむしあつらふのむし
寒山月 三海

あつらふのむしあつらふのむしあつらふのむし
松の月 康民

小舟の松の月あつらふのむしあつらふのむし
社頭月 刀美子

あつらふのむしあつらふのむしあつらふのむし
千鳥 惟学

りらうて何れもあつらふのむしあつらふのむし
山あつらふのむしあつらふのむしあつらふのむし
直好

小舟の松の月あつらふのむしあつらふのむし
重見

あつらふのむしあつらふのむしあつらふのむし
明阿

小舟の松の月あつらふのむしあつらふのむし
永知

市井の松の月あつらふのむしあつらふのむし
可官

綱代あつらふのむしあつらふのむしあつらふのむし
龍

浦戸の浦の深さの記述
浦戸の浦の深さの記述

湖千鳥

明阿

浦戸の浦の深さの記述

清樹

浦千鳥

岸本

浦戸の浦の深さの記述

浦千鳥

後人不知

浦戸の浦の深さの記述

古渡千鳥

道好

浦戸の浦の深さの記述

浦千鳥

永知

浦戸の浦の深さの記述

道好

水鳥知主

幸周

浦戸の浦の深さの記述

水鳥多

貞

浦戸の浦の深さの記述

水鳥驚花

玄如

浦千鳥

浦千鳥

浦千鳥

浦千鳥

磯鴨

クマシレ鴨の次はきくみきい母の親れとくらぶと

磯鴨

重見

あまのきお向の村田ありあけし志くあち取

持存

玉子のう魚引つらむおねえおおむを海からり

玄如

おけりやきしあさん越後うおねえとら丁の親

斐雄

夕まね松のまきぬらお枯のあうとつをせしひく

宗周

きみらこのておをれいあの中村きくねのころ社すれ

重見

お枯のえいおあお葉いさきいさうつをわとむらん

細代

清根

う活川のあおねおるおはしきあよおれいくられ

有融

むきのうららおねおあおけつおあおいあ

直好

細代あうううせうあやちとあうううう

細代集

持存

あまの細代のなれあおあおあああああああ

細代水

清根

あまの細代のあうううううううううううう

尋細代

壽景

たつ神事つ細代つらき事なるかへ村ちおの影をえん
 細代つらき事なる
 およひつらき細代つらき事なるかへつらき事なる
 千益

おみらまのうへつらき細代つらき村のつらき事なる
 雲

今年つらきおの影つらき村のつらき事なる
 連乳
 今年つらきおの影つらき村のつらき事なる
 雲

おみらまのうへつらき細代つらき村のつらき事なる
 雲
 今年つらきおの影つらき村のつらき事なる
 連乳
 今年つらきおの影つらき村のつらき事なる
 雲

頭不知

行路教

雲教如玉

雲教似玉

一城

月前雲

一城

推染雲

一城

雲

直好

おみらまのうへつらき細代つらき村のつらき事なる
 雲
 今年つらきおの影つらき村のつらき事なる
 連乳
 今年つらきおの影つらき村のつらき事なる
 雲

雲

方忠

直好

おのゝこゝろにふりしつゝ

享寿

あまのまよひにまじりて

快存

多氣のしれをばかきしり

信人如

おのゝこゝろにふりしつゝ

直好

月雪香

久方の月夜をばかきしり

詩雪

千益

市のまみれちりしつゝ

重見

袖雪

おのゝこゝろにふりしつゝ

文秋

うさぎのしれをばかきしり

安雄

おのゝこゝろにふりしつゝ

千益

あまのまよひにまじりて

嘉和之

おのゝこゝろにふりしつゝ

千益

あまのまよひにまじりて

山初雪

清樹

初雪のふりかへしつらふとて
清樹の心もさびしきかな

直好

遠山初雪

秀雄

遠山初雪のふりかへしつらふとて
秀雄の心もさびしきかな

久敬

嶺と初雪

信存

嶺と初雪のふりかへしつらふとて
信存の心もさびしきかな

方忠

方忠の心もさびしきかな

初雪

眉生

初雪のふりかへしつらふとて
眉生の心もさびしきかな

享持

享持の心もさびしきかな

直好

夕雪

邦心

夕雪のふりかへしつらふとて
邦心の心もさびしきかな

意誠

初雪

宗明

初雪のふりかへしつらふとて
宗明の心もさびしきかな

雪の深さを知るに雪の深さを知るに雪の深さを知るに

雪の深さを知るに雪の深さを知るに雪の深さを知るに

月前雪

可官

雪の中を歩くと
雪の中を歩くと
雪の中を歩くと

重見

雪の中を歩くと雪の中を歩くと雪の中を歩くと

雪中待

快存

雪の中を歩くと雪の中を歩くと雪の中を歩くと

雪中待

三紫

雪の中を歩くと雪の中を歩くと雪の中を歩くと

雪中

直好

雪の中を歩くと雪の中を歩くと雪の中を歩くと

庭雪

信秀

雪の中を歩くと雪の中を歩くと雪の中を歩くと

雪中

清根

雪の中を歩くと雪の中を歩くと雪の中を歩くと

雪の中を歩くと雪の中を歩くと雪の中を歩くと

雪中

台寔

雪の中を歩くと雪の中を歩くと雪の中を歩くと

雪中

直好

雪の中を歩くと雪の中を歩くと雪の中を歩くと

雪中

三紫

雪の中を歩くと雪の中を歩くと雪の中を歩くと

明阿

谷雪

親山

谷の雪はわいあつたかんとてなまらぬ
あつたかんとてなまらぬ
雪人不知

川雪

雪人不知

雪の川は雪の川は雪の川は雪の川は雪の川は

法峯

雪の川は雪の川は雪の川は雪の川は雪の川は

知紀

雪の川は雪の川は雪の川は雪の川は雪の川は

直好

雪の川は雪の川は雪の川は雪の川は雪の川は

法峯

雪の川は雪の川は雪の川は雪の川は雪の川は

荒波の如くなる雪はさうなるはなまらぬ
山雪
雪人不知

都雪

雪人不知

雪の川は雪の川は雪の川は雪の川は雪の川は

法峯

雪の川は雪の川は雪の川は雪の川は雪の川は

雪降

雪人不知

雪の川は雪の川は雪の川は雪の川は雪の川は

雪降

直好

雪の川は雪の川は雪の川は雪の川は雪の川は

遠近家電

快存

小塔山を海にたゞさるるたゞるるや岸のさるるは

燭火

正徳

埋中のあつたの袖そくさしあつたあつたあつた

向燭火

淨泊

さるるを忘るる後さるるのさるるあつたあつた

清樹

さるるを忘るる後さるるのさるるあつたあつた

享壽

埋中のあつたの袖そくさしあつたあつたあつた

燭火忘る

直好

うきまのあつたの袖そくさしあつたあつたあつた

勝房

ほつたあつたの袖そくさしあつたあつたあつた

埋火

享壽

志つたあつたの袖そくさしあつたあつたあつた

園埋火

直好

終つたあつたの袖そくさしあつたあつたあつた

題不知

信人不知

うきまのあつたの袖そくさしあつたあつたあつた

寒園舎

清根

ひつたあつたの袖そくさしあつたあつたあつた

寒夜舎

信人不知

あつたあつたの袖そくさしあつたあつたあつた

法入不知

岩屋もあらぬあつたをきすまのいよせくる老の仲をきかふる
除やのあよとくわたり年いさるは説きしものころらる

紀成

くみのれをうらを情じ心きて年一とせをさるる

法原

たけりうらまへんまをていけりまをわらへんむとのわらへん高結
老をうらまへんあつたをきかふる計をうらと情をうら

親山

情歳をうら
明のあつたをきかふる計をうらと情をうら

台空

幸かしくいさるままたせらる年をきかふるものいさる
學者情年

文秋

いよるお文のまねをうらと情をうら

重就

行年とらるまのりいさるまをうらと情をうら

直好久教

降おまをうらと情をうらと情をうら

親山

一年のまをうらと情をうらと情をうら
ゆきまをうらと情をうらと情をうら

法入不知

山家集をうら
山家集をうらと情をうらと情をうら

直磨

川家集をうら
川家集をうらと情をうらと情をうら

貞經

大井所のまをうらと情をうらと情をうら
除夜

歳暮鶴

歳暮祝

いぢくまんとて月夜に年付のあはれいさうさうさうさう
いぢくまんとて月夜に年付のあはれいさうさうさうさう

あけさむむまのなれ候いさうさういぢくまんとて月夜に
年付のあはれいさうさうさうさうさう

誰かめとて月夜に年付のあはれいさうさうさうさう
誰かめとて月夜に年付のあはれいさうさうさうさう

新女の年付のあはれいさうさうさうさうさう
新女の年付のあはれいさうさうさうさうさう

ちり梅のらきうさうさうさうさうさう
ちり梅のらきうさうさうさうさうさう

おの鳥
おの鳥

大燈

おの鳥のあはれいさうさうさうさうさう
おの鳥のあはれいさうさうさうさうさう

おの鳥のあはれいさうさうさうさうさう
おの鳥のあはれいさうさうさうさうさう

おの鳥のあはれいさうさうさうさうさう
おの鳥のあはれいさうさうさうさうさう

おの鳥のあはれいさうさうさうさうさう
おの鳥のあはれいさうさうさうさうさう

おの鳥のあはれいさうさうさうさうさう
おの鳥のあはれいさうさうさうさうさう

おの鳥のあはれいさうさうさうさうさう
おの鳥のあはれいさうさうさうさうさう

うさぎの神の宿るさくらよまはねの宿るさくら

孝周

さくらさくらさくらさくらさくらさくらさくらさくら

新しうら

直好

さくらさくらさくらさくらさくらさくらさくらさくら

